

1. 沖繩市 2. 名護市 3. 那覇市 4. 石垣市

1. 広島県 2. 福岡県 3. 岡山県 4. 兵庫県

1. 原子力発電 2. 地熱発電 3. 水力発電 4. 火力発電

1. 久留米市 2. 福岡市 3. 飯塚市 4. 北九州市

1. 河川から運ばれた土砂が固く堆積しており、田を耕することができないため

2. 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため

3. 土壌に含まれる塩分濃度が高く、稲の根が枯れてしまうため

4. 標高が高く年間を通じて気温が低い場合、稲の成長が著しく遅れるため

1. 沖縄県の面積は日本全体の約10%を占めているため、面積比で見れば基地の割合は他県と同水準である。
2. 1972年の本土復帰後も多くの施設が維持され、騒音や事故、跡地利用の制約などが住民生活に影響を与えている。
3. アメリカ軍基地のほとんどは人が住んでいない離島に設置されているため、都市開発への影響は限定的である。
4. サンフランシスコ平和条約の発効と同時にすべての基地が本土へ移転したため、現在は沖縄県の負担は解消されている。

1. 対馬海流の影響を受けて年間を通じて温暖だが、中国山地と四国山地に挟まれているため、年間を通じて降水量は少なくなる。
2. 黒潮（日本海流）の影響で気温は高いが、周囲を高い山々に囲まれた盆地状の地形であるため、湿った空気が入り込まず降水量は少なくなる。
3. 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けて温暖であり、夏から秋にかけての台風や湿った季節風の影響で降水量が多くなる。
4. 寒流である親潮（千島海流）の影響により夏でも涼しく、冬にシベリア高気圧から吹き出す湿った北西の季節風の影響で降水量が多くなる。

1. 火山灰が堆積してきたシラス台地は水はけが良く、稲作に向きない土地が多かったため、広大な土地を畜産に利用したから。

2. 季節風の影響で冬の降雪量が多く、冬の間の農作業が困難であるため、屋内で行える畜産業が選択されたから。

3. 急峻な山地が多く、高冷地での野菜栽培が盛んであったが、連作障害を避けるために家畜を導入したから。

4. リアス海岸が続く複雑な地形で耕地面積が狭いため、限られた土地で効率よく収益を上げられる畜産に特化したから。

1. 一帯が低湿地となっており、水はけが悪くて作物の根腐れが起きやすいため。
2. 標高が非常に高いため年間を通じて気温が低く、米が育たないため。
3. 年間を通して降水量が極めて少なく、農業用水を確保することができないため。
4. 火山噴出物からなる台地が広がり、水はけがよすぎて水田に水を溜めにくい。

1. 那覇市は行政や経済の中心地としての役割が強く、豊見城市是那覇市へ通う人々の住宅都市としての側面が強い。

2. 那覇市は観光開発によって一時的な滞在者が増えており、豊見城市は農業を中心とした自給自足的な地域である。

3. 那覇市と豊見城市の間で、日中の買い物客の移動が双方向に均等に行われていることを示している。

4. 那覇市ではドーナツ化現象により夜間人口が急減しており、豊見城市では都心回帰現象により夜間人口が急増している。

1. 冬に吹く冷たくて強い季節風を遮り、屋内の温度を一定に保つため

2. 地震が発生した際に、振動による建物の倒壊や屋根瓦の崩落を防ぐため

3. 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため

4. 近隣の火山が噴火した際に、降り積もる火山灰の重みに耐えるため

1. 九州地方は天然のブリ類を対象とした海面漁獲量が全国で最も多く、長崎県と島根県が全国の収穫量の過半数を占めている。
2. 海面養殖業の収穫量上位5県はすべて太平洋側に位置しており、九州地方では宮崎県のみがその中に含まれている。
3. 鹿児島県が約4万3千トンと全国で最も多い収穫量を記録しており、大分県や宮崎県と合わせた九州3県で全国の過半数を占めている。
4. 海面養殖業よりも海面漁獲量の方が全国の生産量は多く、九州地方では養殖よりも北海道などから運ばれる天然もの流通が中心である。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 那覇市	沖縄県は日本で唯一の亜熱帯の気候帯に属しており、その県庁所在地である那覇市は、年間を通じて気温が非常に高いことが特徴です。統計によると、年平均気温は23.3度、1月の平均気温も17.0度と非常に温暖で、雪が降ることはほとんどありません。
問2	答え 2 福岡県	福岡県の北九州工業地帯は、高度経済成長期に深刻な公害問題を抱えましたが、市民や企業の努力によって克服しました。その経験から、現在は資源のリサイクルを進める「エコタウン」の取り組みが世界的に評価されており、環境共生型の都市づくりが進められています。
問3	答え 2 地熱発電	九州地方は火山帯に位置しており、地下深くにはマグマだまりが存在します。この熱によって生じた高温の蒸気や熱水を取り出し、タービンを回して発電する仕組みを地熱発電と呼びます。大分県や鹿児島県で盛んに行われており、再生可能エネルギーの一つとして注目されています。
問4	答え 2 福岡市	福岡県には福岡市と北九州市の2つの政令指定都市があります。北九州市は重化学工業を中心とした工業都市としての歴史が深いのに対し、県庁所在地である福岡市は、九州全域を管轄する官公庁や企業の支店が集まる地方中枢都市としての役割を担っています。
問5	答え 2 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため	シラスは火山の噴出物からなる粒子の粗い土壌であり、水分を保持しにくい「水はけが良すぎる」という性質を持っています。常に一定の水を張っておく必要がある水田（稲作）には不向きであったため、代わりに乾燥に強いサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した肉用牛や豚などの畜産が発展しました。
問6	答え 2 1972年の本土復帰後も多くの施設が維持され、騒音や事故、跡地利用の制約などが住民生活に影響を与えている。	沖縄県は第二次世界大戦後、1972年までアメリカの施政権下に置かれていました。本土復帰後も日米安全保障条約に基づき、広大な土地が米軍専用施設として残されました。特に人口密度の高い本島中部に基地が集中していることから、航空機の騒音や事故の危険性、さらには都市開発の妨げといった問題が長年続いています。
問7	答え 3 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けて温暖であり、夏から秋にかけての台風や湿った季節風の影響で降水量が多くなる。	宮崎県は日本の南東部に位置し、沖合を流れる暖流の黒潮（日本海流）の影響を強く受けるため、年平均気温が約18度と高くなります。また、夏には太平洋側から湿った南東の季節風が吹き込むほか、秋にかけては台風の通り道になりやすいため、7月の降水量が350mmを超えるなど、夏季を中心に極めて降水量が多い「太平洋側の気候」の典型的な特徴を示します。
問8	答え 1 火山灰が堆積してできたシラス台地は水はけが良く、稲作に不向きな土地が多かったため、広大な土地を畜産に利用したから。	南九州にはシラス台地と呼ばれる広大な火山灰台地が広がっています。この土地は水持ちが悪く、かつては水田を作ることが困難だったため、サツマイモなどの畑作や、広大な面積を必要とする畜産業が発展しました。現在もその歴史的・地理的背景を受け継ぎ、肉用牛、豚、鶏の生産が極めて盛んです。他の選択肢にある豪雪（新潟など）、リアス海岸（三陸など）、高冷地野菜（長野など）は異なる地域の特色です。
問9	答え 4 火山噴出物からなる台地が広がり、水はけがよすぎて水田に水を溜めにくいから。	九州地方南部には火山噴出物からなるシラス台地が広がっており、水はけが良すぎるため水田に水を溜めて行う稲作には適していません。そのため、水はけの良さを活かした畑作（さつまいもや茶）や畜産業が盛んになりました。
問10	答え 1 那覇市は行政や経済の中心地としての役割が強く、豊見城市は那覇市へ通う人々の住宅都市としての側面が強い。	昼夜間人口比率が100%を超える都市は、周辺地域から労働力や学生を吸収する「吸い出し」の力が強い都市中心部であることを示します。那覇市はその代表例です。対して、比率が100%を下回る豊見城市などは、夜間に眠る場所としての機能が高い「ベッドタウン」としての性格を反映しています。このような人口の移動は、交通網の発達や都市機能の集中、郊外の宅地開発といった地域構造の変化と密接に関連しています。
問11	答え 3 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため	沖縄県や九州地方は、地理的に北西太平洋で発生した熱帯低気圧である台風の進路に当たりやすく、古くから強風や大雨による被害を受けてきました。特に強い風から家屋を守るため、風を遮る石垣や防風林を設けたり、風で瓦が飛ばされないようにしっかりと固定したりするなどの知恵が、生活文化の中に根付いています。地震や火山灰への対策、または冬の季節風対策は、この地域の伝統的な家づくりの主目的ではありません。
問12	答え 3 鹿児島県が約4万3千トンと全国で最も多い収穫量を記録しており、大分県や宮崎県と合わせた九州3県で全国の過半数を占めている。	2020年の統計によると、ブリ類の海面養殖業では鹿児島県が突出した収穫量を誇り、大分県、宮崎県を含めた九州3県の合計が全国の過半数に達しています。これに対し、天然のブリを獲る海面漁獲量では北海道が1位となっており、養殖と漁獲では主要な産地が異なるのが特徴です。また、ブリ類全体の生産量で見ると、漁獲（約10万トン）よりも養殖（約13万7千トン）の方が多くなっています。